

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000752		
法人名	特定非営利活動法人 仁秀会		
事業所名	グループホーム たいよう	ユニット名	一号館
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北6219-42		
自己評価作成日	平成28年1月12日	評価結果市町村受理日	平成28年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年で1号館が開所12年目、2号館が4年目となります。地域に根ざそうと努力してきたことが、徐々に地域の施設として認知されてきました。地域の方が季節の花や野菜を持って遊びに来られ、入居者も職員もいつも明るく笑顔で迎えている。隣接しているホームやデイサービスに遊びに行き、常的交流できる環境です。ホームで共に生活していく中で苦楽を分かち合い、入居者同士が助け合う心温かいホームです。理念に掲げているように、地域とのつながりを大切に、その人らしく生きていけるように、本人の声を聴いて苦しみや希望を捉えられるよう、また、心あるケアで職員全員で温かいホームを目指して努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

リビングルームで歌を歌ったり、ゲームをしたり、来訪者を笑顔で迎えている。職員は、利用者の個性やその日の気分に合わせた行動を見守りながら、励ましの言葉や態度で思いを引き出そうと努めている。施設長や管理者は、職員が意欲的に働けるよう、また、働きやすい職場となるよう、職員の意見をくみ取り、資格取得のための研修参加等に理解を示している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の皆さんが安心して生活が送れるような理念を作成した。職員全員が意識して取り組めるように、職員の目の付く所に数か所掲示している。		新たな理念は、「その人らしく生き続けられるような支援。地域とのつながりの継続。」と利用者への職員の姿勢を具体的に理解しやすく文言化し、リビングや更衣室など目立つ所に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学生との交流や中高生の職場体験を受け入れています。近所の神社祭りに出掛け、地区の方々とふれあう機会を作っている。近所の方に採れた野菜やお漬物などをいただき、日常的に交流している。		自治会に加入しており、地域の情報や理解を得よう努めている。ホームに小学生が来訪したり、また、職場体験や介護実習先として、中・高校生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年、認知症サポーターキャラバン・メイト養成研修を3名終了した。地域の方が認知症になっても安心して暮らせる町を目指して、地域の人を支えられたらと考えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事・活動内容や入居者の方の状況、ホームの現状などを報告し、その中でいただいた意見や助言を会議で報告し、サービスの質の向上に努めている。		会議のメンバーに利用者とふれあってもらい、日常を把握してもらうよう取り組んでいる。また、避難訓練を見学してもらい、高齢化している地域の協力の在り方などについて、意見や課題をあげてもらい、サービス向上へつなげるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より、担当者がホームに来られたり、電話連絡や相談等も行っている。		運営推進会議以外にも専門分野に応じて、担当課及び地域包括支援センターに相談したり、解決に向けて一緒に取り組むなどの協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを作成している。どんな行為が拘束になるか、会議や新人勉強会等で取り上げて話し合っている。「虐待の芽チェックリスト」で職員がケアを振り返り、拘束、虐待をしないケアに取り組んでいる。		身体拘束のマニュアルを作成し、職員の研修を徹底している。「虐待の芽チェックリスト」を活用し、拘束が虐待につながることを理解し、言葉かけや介護方法を工夫し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で、施設長から虐待について話がある。職員の言葉掛けや態度が虐待に繋がる事の話をしている。また、管理者は職員のストレスなど、状態を把握できるよう努力している。			

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して学ぶ機会が少ないが、必要としている人達にこのような制度があることを伝え、成年後見制度を活用している入居者もいる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、解約時は承諾を得られるよう努めている。不明な点はないかを確認し、納得していただけるように努めている。利用料金改定など個々に説明を行い、了承を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の時に話し合いの場を設け、意見や要望を伺う機会を作っている。また、家族会、運営推進会議で外部評価の結果報告を行っている。	職員は、食事時や散歩時を利用者の思いを聞く機会と捉えている。また、家族が来訪した時や家族参加の忘年会・敬老会、家族会総会で意見をだしてもらおうよう努めている。職員の接遇に関する意見はすぐに取り入れている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング等で職員からの意見を聞くようにしている。会議では施設長に直接意見を言う事が出来るので、施設長も運営に反映させやすい。	職員の意見で、午後7時から会議を開催しており、業務や処遇などについて意見が出されている。施設長も参加するので、回答も早く、運営に反映させている。転倒防止に、手すりの位置や段差を改善している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長と管理者が機会あるごとに、各職員の状況を話し合うようにしている。個々の努力や勤務状況に応じた昇給や資格・職種に応じた各種手当・希望休・有休を取得できるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、職員会議で研修報告や施設長による勉強会などを行っている。法人外では、グループホーム連絡協議会やいろいろな分野の研修に全員が参加できるように努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修会や懇親会等に積極的に出席している。同業者と交流する機会となり、情報交換の場としている。			

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉や表情、全身のサインから心情を読み取り、現在の状況を理解・把握するように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に体調面やホームでの様子を伝え、話ができるよう時間をつくっている。ご家族の現在置かれている状況や思いを知り、受け止めるように努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話を聞いて、何が必要なのかを検討するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることは自分で行うよう、声かけや一緒に取り組むことを心掛け、生活を共にしていく人として、関わるように努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時は、ゆっくり過ごせる時間を、また、職員とも話せる時間を作り、お互いに相談、要望などを話せるように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が訪れたり、馴染みのスーパーや床屋、墓参りなど、職員や家族が外出支援を行っている。婦人会の慰問や継続的な交流ができるように働きかけている。	外出は、職員や家族が協力し、支援している。併設のデイサービスに参加する知人と交流したり、年賀状を一緒に作成するなど、関係が継続できるよう支援している。近くの高齢者が話し相手に来訪するようになった。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の入居者の会話や行動、表情等を通して、関係を把握するようにしている。入居者同士で優しく声を掛け合い、思いやり、支えあっていると感じている。			

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り先の関係者に情報を提供している。ご家族にはいつでも相談できる事を話している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を聞くようにしている。思いが言えなかったり、難しい場合は言葉の中から感じとり、会話を工夫して言葉を引き出すようにしているが十分とはいえない。また、会議で本人の思いを把握するようにしている。		職員は、利用者と一緒に食事や散歩の時間を思いを聞く機会と捉えている。利用者を見守り、また、利用者に寄り添い、表情や行動、言葉による表出や表現から、思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に今までの生活歴などを聞いている。しかし、家族から情報が集まらない場合もあり、会議等で情報を交換し、ホームでの生活に活かせるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は気付いたことを記録に書きとめ、会議等で意見交換を行っている。一人ひとりの言動から、心身の状態やできる事、分かることなどに気付けるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思ひごとなどを会話の中から拾い出し、家族の思いや要望をきいている。会議で職員の気づきなどを取り上げ、計画を作成している。変化に応じ、家族と話し合いの場を設けている。		本人や家族の思いを取り入れ、利用者本位の介護計画を作成している。3か月ごとのモニタリングには、介護計画を実践している職員の意見も取り込み、また、6か月ごとに計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録にその日の様子や言葉、表情等、気付いた事を具体的に書くようにしている。ミーティング等で情報交換し、把握するようにしている。計画の見直しに記録を活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、病院受診や個別の外出支援等が柔軟に対応できるように配慮している。多様な支援など、十分といえる取り組みまではいっていないが、協力できる事は行うように努めている。			

宮崎県都農町 グループホームたいよう(一号館)

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に積極的に取り組めていない。ボランティアの方々の訪問はあるが、地域資源の活用や働きかけが少ない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度は協力医の往診を受けている。検査や入院などが必要な場合は、本人、家族が希望する検査や病院で治療が受けられるように支援している。	本人のかかりつけ医での受診や協力医の往診で適切な支援を行っている。必要時には職員も受診に同行している。受診時の情報の提供や収集がなされている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人のいつもの状態を把握し、変化や気づきを看護師に報告、相談をしている。重篤化しないように早期に発見、対応ができるように努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を作成し、細かなことも看護師に伝えるようにしている。入院中も面会や電話で状態を聞く等、情報交換を行い、退院に向けた話し合いを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員や協力医など、体制が整っていない事もあり、入居契約時に家族会で看取りは行わない方針を説明し、書面で同意を得ている。本人や家族、かかりつけ医と段階的に話し合いを重ね、受け入れ先の確保など、本人や家族が安心できるよう努めている。	看取りの経験はあるが、夜間や休日の急変時に協力医の対応が困難であり、現状では看取りを行わない方針を家族に説明し、同意書をかかわっている。重症化した場合の受け入れ先を確保するため、協力医や入院可能な医療機関、行政と話し合い、家族が安心できるよう体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員による救急法やAEDを使った心肺蘇生法を学ぶ機会を年に一度設けている。事故発生時のマニュアルは作成し、救急車要請の連絡方法などを目の付く所に掲示し、冷静に対応できるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は県一斉の災害訓練に参加し、自動通報装置を使用し、通報訓練や夜間を想定した避難訓練、消火訓練を年2回行っている。昨年は運営推進会議のメンバーに訓練の様態を見ていただき、意見をいただいた。	定期的な火災避難訓練を実施し、スロープでの避難経路、一次避難場所や地域の連絡網を整備している。しかし、地域住民には高齢者も多く、協力内容の検討が望まれる。	ホームは町の中心地にも近く、消防体制上、地域住民には一時避難場所に搬出された利用者の見守りや更衣をお願いするなど、具体的に内容を検討することを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方の気持ちを考えた優しい言葉掛けや態度を心掛けている。入浴や排泄時は羞恥心や声の大きさなどにも配慮するようにしている。		笑顔で心掛けている。また、介護への抵抗がある利用者や入浴時に同性介護を希望する利用者への対応、食事のテーブルの座席配置、排せつには、人格や誇りを傷つけないよう気配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表せない人には言葉かけを工夫し、思いを引き出すようにしている。日常生活の中でどんな小さい事でも、自己決定できる機会をつくることを心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や朝、ゆっくり寝ていたい方は、本人の希望にあわせて起床していただいている。一人ひとりの希望に柔軟に対応している事もあるが、不十分である。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は選んでいただき、髪結いなどできる方は鏡を準備し、自分でできる事は行っていただいている。家族や本人の希望で、白髪染め、散髪も行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に料理の味付け・盛り付け、配膳、台拭き等、それぞれできることをしていただいている。入居者の好きなメニューを取り入れている。近所に野菜取りに出掛けたり、旬のものを彩りよく盛り付けるなど、楽しい食事になるよう工夫している。		利用者の持てる機能を引き出しながら、盛り付けや茶わん洗いなどを支援している。近隣の畑の野菜をもらい、季節感のある献立となるよう工夫し、職員も一緒に食事をとりながら、会話から利用者の思いを引き出すようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行い、一人ひとりの食事・水分量・栄養状態などを把握し、咀嚼や嚥下に問題がある方には食事形態を変えて無理なく摂取できるようにしている。水分摂取が足りない方には、好む飲み物を用意して水分摂取量の確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯の状態が悪化したり、入れ歯の不具合があれば家族に報告し、歯科受診を行っている。本人のできる事は奪わず、拒否のある方は声かけを工夫し、口腔ケアを行っている。			

宮崎県都農町 グループホームたいよう(一号館)

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレで排泄されている。排泄時間を記録し、排泄パターンを把握し、失敗なく排泄できるように心掛けている。尿とりパットを徐々に外すなど、自立に向けた支援に努めている。オムツの使用は本人、家族と話をして行っている。	排泄チェック表を活用し、オムツ使用者も昼間はトイレで排せつできるように支援している。野菜の多い献立で便秘の予防にも取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分量の確保、体を動かす体操・散歩、腹部のマッサージなどを取り入れている。薬の使用を減らせるように支援している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴ができるように、少ない人数での入浴を毎日行っている。しかし、時間帯は職員の多い昼間が多いが、入浴を嫌がる方は本人のタイミングに合わせての時間に入浴を行っている。	強く入浴を拒む利用者には無理強いをせず、時間を調整したり、気分を変えて入浴につなげ、職員の共通理解や介護の工夫で、入浴を喜んでもらえるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の好きな時間に居室で休めるようにしている。定期的に布団を干し、冬場は電気毛布や湯たんぽを使用し、気持ちよく眠れるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬予防に服薬のマニュアルを作り、事故予防に努めている。薬の変更もその都度、連絡帳や会議で報告し、把握に努めている。往診時に主治医に症状の変化などを報告し、薬の形態も含め、調整を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の興味、関心のあることを見つけるようにしている。習字や裁縫、料理や歌などを楽しめるように、また、洗濯物たたみ、お盆拭き、モップかけなど一人ひとりの力を活かした役割をもち、職員も一緒に楽しんで行う事で、入居者の笑顔がみられている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週3回は馴染みのスーパーに買い物に出掛けたり、毎年、ぶどう狩り、ピクニックや航空祭にご家族を誘い、出掛けている。敷地内のデイや二号館へ知人に会いに行かされている。ご家族の協力を得て、外食や馴染みの美容室、親せき宅や墓参りに出掛けている。	年間行事として、町内のブドウ狩りや自衛隊の航空祭に家族も一緒に参加している。日常的には、ホームの食材の買い物に出掛けたり、家族の協力を得て、外食をしたり、美容院に行くなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	一号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っている方もいるが、使う事はない。家族に持つこと、使う事の大切さを理解していただけるよう相談している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方の家族と電話や手紙のやり取りをしている。ホームでの生活の様子の写真やホームの新聞を郵送し、喜ばれている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きのリビングにゆったり座れるようにソファを置き、季節に応じた入居者手作りの装飾品や花を飾って季節を感じられるように工夫をしている。湿度や温度、音、光等に配慮している。		リビングや廊下は臭気もなく、清潔に保たれている。食事以外はソファに移動し、テレビを見たり、ゲームをするなどくつろいで過ごせるよう支援している。浴室やトイレは引き戸で出入りしやすい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数で過ごせる和室では、テレビとソファを用意し、気の合う人達が集い、心地良く過ごせるように工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンスやベッド等を居室に置いている。入居時に使い慣れた物や気に入っているものを持ってきていただけるように、家族に話をしている。写真やカレンダー、賞状などを配置し、居心地良く過ごせるように努めている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、住んでいた自宅の地区名入りの表札で確認できるようにしている。目印で赤い花を飾ったり、工夫をしている。			